

令和 5 年 5 月 29 日現在

機関番号：32633

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01082

研究課題名(和文)デュアルモニタリング型テレナーシングの標準化と遠隔医療教育コース開発の混合型評価

研究課題名(英文) Mixed methods evaluation of a standardized dual-monitoring telenursing system and development of a telenursing education program

研究代表者

亀井 智子 (KAMEI, Tomoko)

聖路加国際大学・大学院看護学研究科・教授

研究者番号：80238443

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 35,300,000円

研究成果の概要(和文)：慢性疾患在宅療養者と看護職が相互に療養者の心身情報を共有するデュアルモニタリング型テレナーシングシステムを構築し、テレナーシングの標準的ガイドラインを策定・普及してテレナーシングを提供した。また、看護職のコンピテンシーを高め、自信をもってテレナーシングを提供するための教育プログラムを作成した。コロナ禍で対面教育が困難となったため、eラーニングコースの開発に変更した。混合研究方法による評価から、COPD、肺がん、糖尿病、筋萎縮性側索硬化症在宅療養者のヘルスリテラシーの向上と病の軌跡へのテレナーシング支援の意義を示した。また、eラーニング受講後の看護職の72.7%が自信を向上したことが示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

テレナーシングは発展段階にある新たな看護の提供方法である。そのため、モニタリングの方法、テレナーシングに必要なコンピテンシー、提供方法の標準化を進める必要がある。本研究では、テレナーシングガイドライン作成に併せて看護プロトコルの作成を進め、これらは実装可能であるため、社会的意義がある。また、看護職の学修用にテレナーシングeラーニング(50コンテンツ)を作成し、講義と事例演習動画を搭載した。受講完了者の72.7%はテレナーシングへの自信を向上していることから、テレナーシングへのコンピテンシーの向上とともに、自信をもってテレナーシングを提供するための教材を完成することができ、学術的意義がある。

研究成果の概要(英文)：A dual-monitoring telenursing system was constructed in which people who receive home care with chronic conditions and nurses mutually share the daily psychosomatic monitoring data; standardized guidelines for telenursing were published and disseminated. Based on this system, telenursing was provided to older adults receiving home care. Furthermore, an educational program was created to improve the competency of nurses engaged in telenursing and to provide telenursing with confidence. Face-to-face education became difficult due to the coronavirus crisis; thus, we pivoted to develop an e-learning course. From the mixed methods study evaluation, it was shown that 72.7% of nurses improved their self-confidence after completing the e-learning course. Furthermore, we showed the significance of telenursing to improve health literacy for people with chronic obstructive pulmonary disease, lung cancer, diabetes, and amyotrophic lateral sclerosis and the users' life trajectory.

研究分野：老年看護学、在宅ケア

キーワード：テレナーシング 遠隔モニタリング 慢性疾患 eラーニング 混合研究法

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

遠隔医療の一部であるテレナーシング(遠隔看護)のわが国における実装は未だ発展途上であり、実施基準や心身情報のモニタリング方法、用語の定義、施設・教育要件などは未整備である。

特に慢性疾患在宅療養者へのテレナーシング支援では、療養者自身での心身状態の理解に基づくセルフケア支援が重要であるが、心身情報の共有方法は明確ではない。

デュアルモニタリングに基づくテレナーシングは、在宅療養者本人が測定・回答した心身情報を看護職が共有し、相互に同じ情報に基づいて、看護職が看護相談・保健指導、およびメンタリングを提供して、セルフケアを支援する方法である。これらの方法を具体化し、標準的なガイドを示すことで、テレナーシングの普及が促進できると考えられる。さらに、テレナーシングを提供する看護職(保健師・助産師・看護師:テレナース)を対象とした教育プログラムを開発し、受講した看護職が自信をもってテレナーシングを提供できるよう、教材や教育内容を検討する必要がある。これらにより、医療費抑制を伴う慢性疾患管理方法としてのテレナーシングの実践上の有用性を示す必要がある。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、遠隔医療の先進導入国の情報収集を行いながら、以下を行うことである。

- (1)慢性疾患在宅療養者へのデュアルモニタリング型テレナーシング実践の標準化、および実践的導入による療養者のヘルスリテラシー、病状変化を評価する
- (2)テレナーシング実践に必要なコンピテンシーを身につけ、自信をもってテレナーシングを提供できるよう、看護職を対象としたテレナーシング教育プログラムを開発し、受講評価を行う
- (3)テレナーシングのプロトコル、および標準的実践ガイドを作成し、テレナーシングの普及をはかる

### 3. 研究の方法

- (1)慢性疾患在宅療養者用デュアルモニタリング型テレナーシングシステムの開発と利用調査  
在宅療養者本人とテレナースが心身情報を共有できる構成のテレナーシングシステムの要件定義を行い、テレナーシングシステムの開発を行う。在宅療養高齢者にテレナーシングを提供し、療養者のヘルスリテラシー、病状の変化と経過などについて評価する。

- (2)日豪テレナーシング教育の実態調査

クイーンズランド大学の連携研究者を訪問し、日豪のテレナースを育成するカリキュラム開発のための実態調査を計画する。

- (3)テレナース育成プログラムの検討と、セミナー開催、eラーニング開発

テレナースのコンピテンシーを文献検討から明確化し、それをもとに自信をもってテレナーシングを提供できるテレナースを育成する教育プログラムを開発し、受講者の評価を行う。

- (4)テレナーシングプロトコル、および標準的実践ガイドの作成と普及

テレナーシングの適用疾患として、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、誤嚥性肺炎、筋萎縮性側索硬化症、糖尿病、慢性心不全、肺がん、および新型コロナウイルス感染症在宅療養者へのテレナーシングプロトコルの開発と、トリガー項目の検討を行う。さらに、テレナーシングの定義、実施方法、科学的根拠を明示したテレナーシングガイドラインを学会と協働して作成する。テレナーシングを普及するため、学会・大学などが主催する研修会・講演会などの場で、積極的に本研究成果を講演し、テレナーシングの周知度の向上と普及を図る。

### 4. 研究成果

- (1)開発したデュアルモニタリング型テレナーシングシステム

在宅療養者側端末では、時計型ウェアラブル機器、Bluetooth 対応型血圧計・体温計・体重計・パルスオキシメータ、問診項目(服薬状況、睡眠、食欲、身体可動性、浮腫、排尿、排便、痰、疼痛、意識状態、動悸、嘔下ほかの症状、息切れ、全体的体調)、これらを管理する Android タブレット端末で構成するデュアルモニタリング型テレナーシングシステムを完成した。タブレット画面上には、音声誘導にて測定項目、症状項目が表示され、症状は絵柄で表示した回答選択肢の中から該当する程度を回答できるように標準化した。また、システムには、テレナースへのコメント送信機能、データのグラフ表示機能、情報検索機能、ビデオ通話機能を搭載した。テレナース側では、個人情報設定機能、トリガーポイント設定機能、受講した心身情報の表示画面、経過グラフ表示機能、サマリー作成機能を搭載した。このシステムを一日1回在宅療養者が使用して、心身情報をテレナースに送信し、テレナースがモニタリング・トリアージに基づくテレナーシングを提供する複数機関で利用可能なシステムとして完成した(図1)。



図1 療養者用タブレット端末

- (2)テレナーシング利用調査

(1)のデュアルモニタリング型テレナーシングシステムを利用して、利用評価を行った。コ

コロナ禍による医療機関とのミーティングや計画していた医療機関の外来での直接の対象候補者へのリクルートが実施できなかった。最終的に6名(慢性閉塞性肺疾患1名、肺がん2名、糖尿病1名、筋萎縮性側索硬化症2名への)の協力が得られ、延べ2,159日間のテレナーシングの提供を行った。筋萎縮性側索硬化症者では、日々の測定値を生活動作の目安に活用し、酸素飽和度低下が肺炎同定につながった。縦断的混合研究法を用い、慢性閉塞性肺疾患をもつ事例のコロナ前からコロナパンデミック期にかけての3年間を病みの軌跡理論(Cobin & Strauss, 1991)を用いて、心身の量的・質的变化を縦断的に統合した(図2)。その結果、身体的モニタリングデータである、Borg scale、一日歩数、肥満度の量的データは、コロナによる外出制限と平行に変化していたが、A氏の心理的な状態は、「今が最も良い状態である」と感じたり、「友人と自分を比べ気分が落ち込む」という悲観、「旅行をしたい」という気分の高揚、「将来への不安」というように、パンデミック下で振り子のように、プラス/マイナスに心理的に揺れ動く様相が明確化した。

テレナーシングはA氏が社会と繋がる手段となっており、遠隔モニタリングによる健康状態の見守りに加え、情緒面をとらえた支援を提供する重要な方法となっていた。また、外出制限期に遠隔呼吸リハビリテーションを提供した。頸部、肩部などの呼吸筋ストレッチ、ゴム製ベルトを使用した下肢筋カトレーニングなど、呼吸困難の程度に合わせた低強度の遠隔リハビリテーションを行い、呼吸困難の低減に有効であった。パンデミック下でもテレナーシングで繋がることで、個別性のあるケアの提供が可能となると考えられた。

また、肺がんの事例(B氏)のデュアルモニタリングから、降圧剤処方変更後の血圧変動が大きいことをトリアージしたため、遠隔服薬確認を行った。その結果追加分の処方薬の飲み忘れがあることが把握でき、医師との連携により、処方の再度の調整につながった。

### (3) テレナースを育成するカリキュラム開発のための実態調査

オールボー大学の連携研究者への訪問、およびクイーンズランド大学の連携研究者への訪問を行い、各国の専門職教育の情報を収集した。また、テレナースを育成するカリキュラム開発のための実態調査を日豪間で協働して行うことを計画した。日英語版のオンライン調査サイトを作成し、調査を行う準備を完了した。しかし、豪州の調査については、コロナ流行によるロックダウンの影響が長期に続いたため、調査協力大学との交渉が進まず、最終的に豪州内の調査は実施できなかった。

国内調査では、2020年度に看護系大学289校に郵送調査を行った。コロナ禍(第2波)と時期が重なったため、回答校は少数であったが36校からの回答を得た。分析の結果、回答校中、遠隔医療やテレナーシングに関する学部教育を1コマ以上実施していたのは8校であることが判明した。96%の大学は「テレナーシング・遠隔医療教育は必要である」と回答していたが、教育上の課題として「テレナーシングを知らない」「テクノロジーを応用した看護について教える教員がいない」「実践現場、実習現場がない」などがあると回答していた。

### (4) テレナース育成プログラムの開発

(3)の調査結果を踏まえ、テレナースを育成するための1日コースのカリキュラムを作成した。2019年3月開催予定で参加者募集を行い、15名が参加登録したが、新型コロナウイルス感染症第1波の影響を受け、開催は中止した。

### (5) テレナース育成eラーニング開発と評価

対面によるテレナース育成セミナーの開催はしばらくの間困難であると判断し、eラーニングによる教育プログラムの開発に変更した。カリキュラムの構成は、国内調査をもとに、これまでの対面によるテレナース育成セミナーを基本として、分担研究者・協働研究者を上げてコンテンツ動画の作成を進めた。チャプターは、.テレナーシング概論(8コンテンツ)、.テレナーシングに必要な情報・通信リテラシーの基礎(6コンテンツ)、.遠隔モニタリングの基礎(11コンテンツ)、.テレナーシングの実践方法(17コンテンツ)、.テレナーシングの実技演習(8コンテンツ)、.呼吸ケア特別編(4コンテンツ)、計55コンテンツで構成とした(表1)。各コンテンツは、5~15分で要点を簡潔に説明する動画教材とした。学修順序は、コンテンツ1から順に進むものとし、各コンテンツの学修終了時に、4肢による小テストが2~3問提示され、学修習者自身で内容理解の確認ができる。全て正解となった場合、次のコンテンツの学修に進

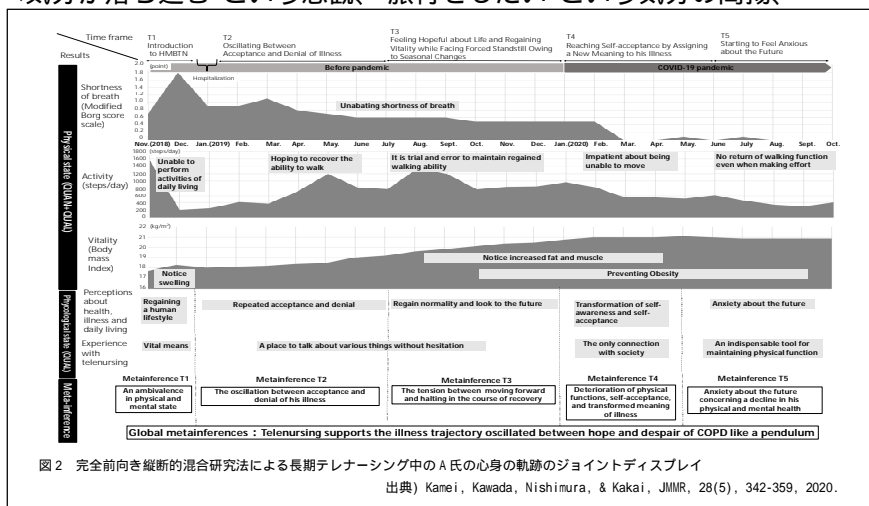


図2 完全前向き縦断的混合研究法による長期テレナーシング中のA氏の心身の軌跡のジョイントディスプレイ  
出典) Kamei, Kawada, Nishimura, & Kakai, JMIR, 28(5), 342-359, 2020.



めるよう設計した。これらは、クラウド型 e ラーニングシステム Eduilio(ABCD Partners)を通じて配信するものとした。

完成した e ラーニングを看護職を対象として 2021 ~ 2022 年度に使いやすさ・実用性調査を行った。調査は ARCS(attention, relevance, confidence, satisfaction)モデル(Keller, 2010)を用い、テレナーシングへの興味、e ラーニングの各コンテンツの使いやすさ、実用性、コンテンツの修正意見、自由意見を収集した。分析は、混合研究法収斂デザインにより、テレナーシングへの自信が向上した群と不変・低下群について、使いやすさと実用性の側面の量的評価(外的学修経験)、および自由意見に記載されている内容から、質的評価(内的学修経験)を行い、両者を統合し、メタ推論を行った。

研究参加者募集フライヤーにより、227 人の看護職が参加の意向を示した。このうち、1 コンテンツ以上視聴した者 152 人のうち、設定した調査期間内に全コンテンツの視聴を完了した 143 人を分析した(有効完遂率 94.1%)。

143 人のうち、e ラーニング受講によりテレナーシングへの自信が向上したのは 104 人(72.7%)であった。自信が向上した群と不変・低下群の e ラーニングの使いやすさ、および実用性に統計学的差異は認められず、コンテンツの修正意見にも差は認めなかった。しかし、自由意見から、学修を通して何を学んだのか、内的学修経験を抽出し、内容分析を行った。その結果、自信が向上した群では、使いやすさの点で疾患別のモニタリングや観察に特徴的な理解ができたこと、教材が分かりやすいとしたこと、建設的な意見が記載されていたが、自信が不変・低下した群では、テレナーシングの重要性やテレナースとテレナーシング方法を知ったという深まりがない記載や、テレナーシングに懐疑的意見があるという特徴が見られた。実用性の点では、自信上昇群では、テレナーシングへの明確なイメージをもち、これまでの自身の知識をテレナーシングに統合することや、利用者のニーズへの深い理解、そして新たな看護としての役割の可能性を記載しており、自信不変・低下群とは理解の程度が異なることが明確化した。これらの収斂結果から、両群の量的な使いやすさと実用性の量(外的学修経験)の評価結果は、内的な e ラーニング学修経験とは一貫していないことがメタ推論された。

今後、e ラーニングによるテレナーシング学修を進める上では、内的学修経験がより深まるような対面学修の機会を設定するなどの工夫を行い、テレナーシングへの自信を持てるような学修支援方法を検討することが重要であると考えられた。

#### (6)テレナーシングプロトコルの作成

テレナーシングを行うに際し、受信した心身のモニタリング情報すべてについての判断樹(テレナーシングプロトコル)を疾患毎に作成した。完成したテレナーシングプロトコルの対象疾患は、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、誤嚥性肺炎、糖尿病、筋萎縮性側索硬化症、慢性心不全、肺がん、新型コロナウイルス感染症の 8 疾患となった(図 3)。

#### (7)テレナーシングガイドライン作成と普及活動

テレナーシングガイドラインの作成を行った。分担研究者、連携研究者との共著により 2021 年 10 月に書籍として刊行された。内容構成は、第 1 章:テレナーシングとは、第 2 章:情報通信技術(ICT)とリスク管理の基本、第 3 章:テレナーシングの関連法規と倫理、第 4 章:テレナーシングの実践方法、第 5 章:テレナーシングのエビデンスと推奨、第 6 章:テレナーシングを利用する方々へ(市民向け)とした。テレナーシングを普及するためのセミナーでは、日本在宅ケア学会が主催したケアイノベーション研修(2021 年度オンラインライブ、2022 年度オンデマンド)を開催した。演習では、テレナーシング場面の動画教材を作成した。このほか、各種学会・大学・団体からの講演依頼を受け、2019 年度 3 回、2020 年度 2 回、2021 年度 14 回、2022 年度 20 回のテレナーシングに関する講演・講義を行い、看護職へのテレナーシング、およびエビデンスの理解の促進に向けた普及活動を進めた。NHK ニュース番組からの取材を受け、2021 年 3 月に番組内でテレナーシングについて放映された。

表1 テレナーシング学習用e-learning教材 コンテンツ一覧

章	項目
1. テレナーシング概論	1 テレナーシングの定義、目的、特徴
	2 テレナーシングと関連法律・医療制度
	3 テレナーシングとの倫理原則
	4 テレナーシングの種類・形態
	5 テレナーシングと質保証
	6 国内・外の遠隔医療の歴史と動向
	7 遠隔医療と診療報酬制度
	8 テレナーシングとエビデンス(科学的根拠)
2. テレナーシングに必要な情報・通信リテラシーの基礎	1 テレナーシング実践のための情報リテラシー
	2 テレナーシング実践のための情報セキュリティと情報管理
	3 テレナーシングに必要なプラットフォーム
	4 テレナーシングと情報通信技術(ICT)、IoT
	5 遠隔医療とAI(人工知能)・ビッグデータ
	6 次世代通信技術(5G)とテレナーシング
3. 遠隔モニタリングの基礎	1 テレナーシングに必要な心身のモニタリングと評価
	2 主な慢性疾患の特徴とモニタリングの必要性
	3 各種計測機器の利用目的と取り扱い方法
	4 疾患別在宅療養者の遠隔モニタリング 糖尿病
	5 疾患別在宅療養者の遠隔モニタリング 心不全
	6 疾患別在宅療養者の遠隔モニタリング 慢性閉塞性肺疾患
	7 疾患別在宅療養者の遠隔モニタリング④ 間質性肺炎
	8 疾患別在宅療養者の遠隔モニタリング 誤嚥性肺炎
	9 疾患別在宅療養者の遠隔モニタリング がん
	10 疾患別在宅療養者の遠隔モニタリング 神経難病
	11 疾患別在宅療養者の遠隔モニタリング SARS-Cov2
4. テレナーシングの実践方法	1 テレナーシングとPeople-Centered Careの考え方
	2 テレナーシングの利用者のヘルスリテラシーの評価
	3 一次予防・二次予防・三次予防と継続支援ニーズ
	4 対象者と家族の特性とテレナーシングへのニーズ
	5 テレナースがもつべき姿勢とスキル
	6 テレナーシングに必要な機器やシステムと取り扱い
	7 ヘルスコミュニケーションの基本
	8 遠隔コミュニケーションの基本
	9 慢性疾患をもつ人への看護相談・保健指導の基本
	10 ストワー・アンド・フォワード方式(電子メール)を用いた支援の基本
	11 テレナーシング開始手順、説明と同意の取得
	12 テレナーシングと看護過程
	13 テレナーシングと看護記録
	14 多職種連携と地域包括ケア
	15 テレナーシングの中止・終了の考え方
	16 テレナーシングで在宅療養を支えた事例紹介1
	17 テレナーシングで在宅療養を支えた事例紹介2
5. テレナーシングの実技演習	1 遠隔モニタリング・遠隔観察の実技演習
	2 実技演習 心不全をもつ療養者へのテレナーシング
	3 遠隔モニタリング・遠隔観察の実技演習 1.糖尿病をもつ人の例
	4 遠隔モニタリング・遠隔観察の実技演習 2.間質性肺炎をもつ人の例
	5 ストワー・アンド・ホワード方式(電子メール)の実技
	6 看護過程
	7 事例展開の実際
	8 COPD動画演習
呼吸ケア特別編	1 呼吸ケアと運動療法
	2 呼吸ケアと気道クリアランス
	3 呼吸ケアと薬物療法
	4 呼吸ケアと呼吸ケアと感染予防・心理的支援



図3 テレナーシングプロトコル

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計60件（うち査読付論文 32件／うち国際共著 3件／うちオープンアクセス 31件）

1. 著者名 Kamei Tomoko, Kawada Aki, Nishimura Naoki, Kakai Hisako	4. 巻 15
2. 論文標題 A Fully Longitudinal Mixed Methods Case Study Design: An Example Based on the Illness Trajectory of a Person With Chronic Conditions in Home-Monitoring-Based Telenursing During the COVID-19 Pandemic	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Mixed Methods Research	6. 最初と最後の頁 413～436
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/15586898211019512	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 亀井智子、伊波早苗	4. 巻 8
2. 論文標題 テレナーシング（遠隔看護）の可能性 CNSはテレナーシングにどう取り組むのか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本CNS看護学会誌	6. 最初と最後の頁 85～91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32164/jpncns.8.0_85	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 亀井智子、橋田浩一、河田萌生、江藤祥恵、猪飼やす子、米倉佑貴、西村直樹	4. 巻 8
2. 論文標題 分散型テレナーシングアプリケーションの開発とユーザビリティ評価	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 聖路加国際大学紀要 = Bulletin of St. Luke's International University	6. 最初と最後の頁 64～69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34414/00016572	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 亀井智子	4. 巻 5
2. 論文標題 地域保健活動に活かす混合研究法：質と量両者の統合から見えるもの	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 保健師教育	6. 最初と最後の頁 7～13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32117/hokenshikyoiiku.5.1_7	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 猪飼やす子, 大友晋, 南琴子, 亀井 智子	4. 巻 25
2. 論文標題 慢性閉塞性肺疾患在宅療養者を対象とした専門職による遠隔モニタリング支援のヘルスアウトカムへの有効性 : システマティックレビューとメタアナリシス	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本在宅ケア学会誌	6. 最初と最後の頁 38 ~ 53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 猪飼やす子, 根岸由依, 加藤エリカ, 石川和枝, 原田智世, 亀井智子	4. 巻 25
2. 論文標題 心不全在宅療養者を対象とした専門職による遠隔モニタリングのヘルスアウトカムへの有効性 : システマティックレビューとメタアナリシス	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本在宅ケア学会誌	6. 最初と最後の頁 77 ~ 91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大友晋, 猪飼やす子, 南琴子, 亀井智子	4. 巻 25
2. 論文標題 慢性閉塞性肺疾患在宅療養者を対象とした専門職による遠隔モニタリング支援の不安・うつと生活の質への有効性: システマティックレビューとメタアナリシス	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本在宅ケア学会誌	6. 最初と最後の頁 93 ~ 107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 抱井尚子, 八田太一, 阿部路子, 大河原知嘉子, 眞壁幸子, 福田美和子, 野崎真奈美, 亀井智子	4. 巻 8
2. 論文標題 混合研究法の認知度・活用状況と研究実施上の課題 - 看護学研究者を対象とする実態調査から -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Aoyama Journal of International Studies	6. 最初と最後の頁 93 ~ 121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34321/22124	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 亀井智子	4. 巻 31
2. 論文標題 在宅療養者への テレナーシング実践と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 緩和ケア	6. 最初と最後の頁 164 ~ 168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 亀井智子	4. 巻 38
2. 論文標題 在宅ケアの新しいシステム「テレナーシング」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 エキスパートナース	6. 最初と最後の頁 178 ~ 180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 亀井智子	4. 巻 54
2. 論文標題 混合研究法を用いた看護研究支援ツール (m-STAR21)の開発と展望	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 看護研究	6. 最初と最後の頁 120 ~ 124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11477/mf.1681201857	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 亀井智子	4. 巻 73
2. 論文標題 テレナーシングとこれから	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 看護	6. 最初と最後の頁 94 ~ 95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 亀井智子	4. 巻 2021
2. 論文標題 テレナーシングの現状と今後の課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本看護学校協議会共済会	6. 最初と最後の頁 2~7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakayama Yuki, Shimizu Toshio, Matsuda Chiharu, Haraguchi Michiko, Hayashi Kentaro, Bokuda Kota, Nagao Masahiro, Kawata Akihiro, Takahashi Kazushi	4. 巻 12
2. 論文標題 Body Weight Gain Is Associated with the Disease Stage in Advanced Amyotrophic Lateral Sclerosis with Invasive Ventilation	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Metabolites	6. 最初と最後の頁 1~14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/metabo12020191	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中山優季, 板垣ゆみ, 原口道子他.	4. 巻 26
2. 論文標題 難病患者の生活実態による新たな指定難病の類型化とその特徴~平成29年難病患者の生活実態全国調査から~	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本難病看護学会誌	6. 最初と最後の頁 174~184
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hirayama Takehisa, Izumi Yuishin, Nakayama Yuki, Shibukawa Mari, Ebihara Satoru, Kano Osamu	4. 巻 122
2. 論文標題 Communicating the diagnosis: a survey of patients with amyotrophic lateral sclerosis and their families in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Acta Neurologica Belgica	6. 最初と最後の頁 471~478
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s13760-021-01801-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 板垣ゆみ、中山優季、原口道子他、	4. 巻 8
2. 論文標題 在宅人工呼吸器使用患者の災害時の備えの現状 - 訪問看護ステーションへの質問紙調査より	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本難病医療ネットワーク学会学会誌	6. 最初と最後の頁 42-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Norioka Ryohei, Shimizu Toshio, Bokuda Kota, Morishima Ryo, Kawazoe Tomoya, Kimura Hideki, Asano Yuri, Nakayama Yuki, Takahashi Kazushi	4. 巻 132
2. 論文標題 Enlarged High Frequency Oscillations of the Median Nerve Somatosensory Evoked Potential and Survival in Amyotrophic Lateral Sclerosis	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Clinical Neurophysiology	6. 最初と最後の頁 2003~2011
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.clinph.2021.05.023	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 抱井尚子	4. 巻 54
2. 論文標題 看護研究者のための混合研究法 eラーニングシステムの構築とその意義	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 看護研究	6. 最初と最後の頁 94~100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11477/mf.1681201854	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河村洋子、抱井尚子、高木亜希子、阿部路子	4. 巻 54
2. 論文標題 看護分野における混合研究法教育の国際的現状	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 看護研究	6. 最初と最後の頁 110~118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11477/mf.1681201856	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 抱井尚子、Evanoff, R、八田太一、中田亜希子、中村聡美、成田慶一	4. 巻 9
2. 論文標題 人間科学研究の実施における倫理問題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Aoyama Journal of International Studies	6. 最初と最後の頁 63～66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 東福寺幾夫	4. 巻 53
2. 論文標題 遠隔医療の現状と問題点～遠隔医療持続の観点から～	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 小児外科	6. 最初と最後の頁 413～416
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 東福寺幾夫	4. 巻 93
2. 論文標題 遠隔医療の基礎知識と現況	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 耳鼻咽喉科・頭頸部外科	6. 最初と最後の頁 396～400
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ro Shosei、Imai Ryosuke、Kitamura Atsushi、Jinta Torahiko、Nishimura Naoki	4. 巻 9
2. 論文標題 Ultrasonic humidifier lung as a mimic of COVID 19	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Respirology Case Reports	6. 最初と最後の頁 1～3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/rcr2.761	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kitamura Atsushi, Okafuji Kohei, Imai Ryosuke, Murakami Manabu, Ro Shosei, Tomishima Yutaka, Jinta Torahiko, Nishimura Naoki, Tamura Tomohide	4. 巻 59
2. 論文標題 Reproducibility of peripheral branches in virtual bronchoscopic navigation using VINCENT and LungPoint software for peripheral lung lesions	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Respiratory Investigation	6. 最初と最後の頁 772 ~ 776
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.resinv.2021.04.006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ikeda Satoshi, Misumi Toshihiro, Izumi Shinyu, Sakamoto Keita, Nishimura Naoki, et al.	4. 巻 11
2. 論文標題 Corticosteroids for hospitalized patients with mild to critically-ill COVID-19: a multicenter, retrospective, propensity score-matched study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-021-90246-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Imai Ryosuke, Ro Shosei, Tomishima Yutaka, Nishimura Naoki	4. 巻 59
2. 論文標題 Steroid resistance and rebound phenomena in patients with COVID-19	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Respiratory Investigation	6. 最初と最後の頁 608 ~ 613
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.resinv.2021.05.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ro Shosei, Nishimura Naoki, Imai Ryosuke, Tomishima Yutaka, So Clara, Murakami Manabu, Okafuji Kohei, Kitamura Atsushi, Jinta Torahiko, Tamura Tomohide	4. 巻 16
2. 論文標題 Identification of patients with COVID-19 who are optimal for methylprednisolone pulse therapy	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Multidisciplinary Respiratory Medicine	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4081/mrm.2021.781	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yokosuka Ryohsuke, Imai Ryosuke, Ro Shosei, Murakami Manabu, Okafuji Kohei, Kitamura Atsushi, Tomishima Yutaka, Jinta Torahiko, Nishimura Naoki, Tamura Tomohide, Takahashi Osamu	4. 巻 2021
2. 論文標題 Pectoralis Muscle Mass on Chest CT at Admission Predicts Prognosis in Patients with Pneumonia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Canadian Respiratory Journal	6. 最初と最後の頁 1~7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1155/2021/3396950	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Imai Ryosuke, Nishimura Naoki, Takahashi Osamu, Tamura Tomohide	4. 巻 4
2. 論文標題 High resolution computed tomography for the prediction of mortality in acute respiratory distress syndrome: A retrospective cohort study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Health Science Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/hsr2.418	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Imai Ryosuke, Mizuno Atsushi, Miyashita Mitsunori, Okafuji Kohei, Kitamura Atsushi, Tomishima Yutaka, Jinta Torahiko, Nishimura Naoki, Tamura Tomohide	4. 巻 2
2. 論文標題 Bereaved Family Members' Perceived Care at the End of Life for Patients with Noncancerous Respiratory Diseases	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Palliative Medicine Reports	6. 最初と最後の頁 265 ~ 271
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1089/pmr.2021.0034	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tamura Akiko, Imai Ryosuke, Tomishima Yutaka, Nishimura Naoki	4. 巻 10
2. 論文標題 Progressive pulmonary fibrosis due to diffuse alveolar damage in a <sc>COVID</sc> 19 infected autopsy case	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Respirology Case Reports	6. 最初と最後の頁 1~4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/rcr2.934	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tomoko Kamei, Takuya Kanamori, Yuko Yamamoto, Sisira Edirippulige	4. 巻 -
2. 論文標題 The use of wearable devices in chronic disease management to enhance adherence and improve telehealth outcomes: A systematic review and meta-analysis	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Telemedicine and Telecare	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1357633x20937573	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 山本由子、亀井智子、金盛琢也、中山優季	4. 巻 14
2. 論文標題 慢性疾患を持つ在宅高齢者へのテレナーシング推進に向けた課題：セミナー参加者調査から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京医療保健大学紀要	6. 最初と最後の頁 93-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 亀井智子、山本由子、光永悠彦、中山優季、金盛琢也、東福寺幾夫、亀井延明、抱井尚子、高橋恵子、河田萌生、猪飼やす子	4. 巻 16
2. 論文標題 国内看護系大学・大学院における遠隔看護教育の実態と課題 第1報：学士課程教育上の課題とニーズ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本遠隔医療学会雑誌	6. 最初と最後の頁 110-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本由子、亀井智子、光永悠彦、中山優季、金盛琢也、東福寺幾夫、亀井延明、抱井尚子、高橋恵子、河田萌生、猪飼やす子	4. 巻 16
2. 論文標題 国内看護系大学・大学院における遠隔看護教育の実態と課題 第2報：学士課程教育での必要性の認識	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本遠隔医療学会雑誌	6. 最初と最後の頁 114-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 光永悠彦、亀井智子、山本由子、中山優季、金盛琢也、東福寺幾夫、亀井延明、抱井尚子、高橋恵子、河田萌生、猪飼やす子	4. 巻 16
2. 論文標題 国内看護系大学・大学院における遠隔看護教育の実態と課題 第3報：大学院における教育の必要性の認識と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本遠隔医療学会雑誌	6. 最初と最後の頁 118-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 亀井智子	4. 巻 13
2. 論文標題 慢性疾患在宅療養者を支援するテレナーシングの現状と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地域連携 入退院と在宅支援	6. 最初と最後の頁 16-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 亀井智子	4. 巻 7
2. 論文標題 慢性疾患等在宅療養者支援のためのテレナーシングセンターの開発と実践報告	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 聖路加国際大学紀要	6. 最初と最後の頁 189-194
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 亀井智子、川上千春、河田萌生、江藤祥恵、猪飼やす子	4. 巻 7
2. 論文標題 2020年度前期オンライン学習期間における学部老年看護学関連科目の演習報告	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 聖路加国際大学紀要	6. 最初と最後の頁 195-200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 Shimizu Toshio, Nakayama Yuki, Funai Asuka, Morishima Ryo, Hayashi Kentaro, Bokuda Kota, Nakata Yasuhiro, Isozaki Eiji	4. 巻 21
2. 論文標題 Progressive deterioration of sensory cortex excitability in advanced amyotrophic lateral sclerosis with invasive ventilation	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Amyotrophic Lateral Sclerosis and Frontotemporal Degeneration	6. 最初と最後の頁 147-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/21678421.2019.1704015	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Cazzolli Pamela A, Brooks Benjamin Rix, Nakayama Yuk, Lewarski Joseph S, McKim Douglas A, Holt Sheryl L, Chatburn Robert L	4. 巻 65
2. 論文標題 The Oral Secretion Scale and Prognostic Factors for Survival in Subjects With Amyotrophic Lateral Sclerosis	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Respiratory Care	6. 最初と最後の頁 1063-1076
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4187/respcare.07005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 板垣ゆみ、中山優季、原口道子、松田千春、笠原康代、小倉朗子、宮原舞、小森哲夫	4. 巻 24
2. 論文標題 全国調査からみた指定難病患者の生活状況と医療状況 - 難病法施行後に指定された疾病に焦点をあてて -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本難病看護学会誌	6. 最初と最後の頁 251-269
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中山優季	4. 巻 37
2. 論文標題 神経難病と療養支援の現状と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 神経治療	6. 最初と最後の頁 299-303
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中山優季、原田さをり	4. 巻 37
2. 論文標題 神経筋疾患の呼吸療法に関する近年の問題点ALS・筋ジストロフィーをめぐって:NPPV・機械的咳介助使用条件・その至適使用時期など	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人工呼吸	6. 最初と最後の頁 151-157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kanemura Hiroaki、Tamura Tomohide、Nishimura Naoki、Kobayashi Daiki、Higashi Takahiro	4. 巻 50
2. 論文標題 Thymic epithelial tumor treatment in Japan: analysis of hospital cancer registry and insurance claims data, 2012?2014	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Clinical Oncology	6. 最初と最後の頁 310-317
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jjco/hyz167	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 次富亮輔、今井亮介、西村直樹	4. 巻 37
2. 論文標題 人工呼吸管理のすべて:急性呼吸不全に対するNIVとHFNC	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 呼吸器内科	6. 最初と最後の頁 373-380
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西村直樹	4. 巻 18
2. 論文標題 -エビデンスと貴重な実践知をふまえて-めざそう!質の高いハイフローセラピー(Part.1)比べてわかるHFNCの適応範囲とエビデンス:ハイフローセラピーの原理と効果、エビデンス	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 みんなの呼吸器Respica	6. 最初と最後の頁 732-737
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 抱井尚子	4. 巻 14
2. 論文標題 エビデンスを「つくる」「つたえる」「つかう」ための混合型研究：研究実施における3つのポイント	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 認知療法研究	6. 最初と最後の頁 7-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 抱井尚子	4. 巻 23
2. 論文標題 混合研究法—量と質の境界を超えて—	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 第二言語としての日本語の習得研究	6. 最初と最後の頁 132-137
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高木亜希子、阿部路子、河村洋子、抱井尚子	4. 巻 8
2. 論文標題 混合研究法の教育及び学習に関する先行研究の概観 包括的な文献レビューに基づいて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Aoyama Journal of International Studies	6. 最初と最後の頁 137-157
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川久美子、抱井尚子	4. 巻 105
2. 論文標題 グローバル系学部学生のグローバルキャリア志向とその変容プロセス TEA による質的研究主導型混合研究法を用いて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 青山国際政経論集	6. 最初と最後の頁 55-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川慎一郎、グレッグ美鈴、成田慶一、抱井尚子	4. 巻 54
2. 論文標題 量的研究・質的研究の課題と展望、そして混合研究法の未来	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 看護研究	6. 最初と最後の頁 26-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 亀井智子	4. 巻 31(1)
2. 論文標題 高齢者のため遠隔看護(テレナーシング)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 44-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 亀井智子, 川上千春, 山本由子, 金盛琢也	4. 巻 6
2. 論文標題 日伝共同プロジェクト「JD-Tele Techワークショップ2019」参加報告とわが国の遠隔医療への示唆	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 聖路加国際大学紀要	6. 最初と最後の頁 33-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 亀井智子	4. 巻 23(2)
2. 論文標題 在宅ケア研究における混合研究法の活用	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本在宅ケア学会誌	6. 最初と最後の頁 37-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 亀井智子	4. 巻 23(1)
2. 論文標題 デンマーク王国オールボー市等による在宅ケアニーズをもつ生活者への保健医療福祉テクノロジーを用いた支援	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本在宅ケア学会誌	6. 最初と最後の頁 18-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 マーテンス, D.M.・抱井尚子	4. 巻 6
2. 論文標題 混合研究法セミナー報告: 社会改善を志向する変革的混合研究法	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Aoyama Journal of International Studies	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Nakayama Yuki, Shimizu Toshio, Matsuda Chiharu, Haraguchi Michiko, Hayashi Kentaro, Bokuda Kota, Nagao Masahiro, Kawata Akihiro, Ishikawa-Takata Kazuko, Isozaki Eiji	4. 巻 9
2. 論文標題 Body weight variation predicts disease progression after invasive ventilation in amyotrophic lateral sclerosis	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-019-48831-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ideguchi N, Nakayama Y, Nakajima T.	4. 巻 31(1)
2. 論文標題 Patient-based quality of life(QoL) measurement using the Schedule for the Evaluation of Individual QoL(SEIQoL) and response shift.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Showa university of medical sciences	6. 最初と最後の頁 93-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計112件（うち招待講演 62件／うち国際学会 28件）

1. 発表者名 Tomoko Kamei
2. 発表標題 Telenursing Support for Older Adults with Chronic Conditions During the COVID-19 pandemic
3. 学会等名 Kansas University International Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 亀井智子
2. 発表標題 テレナーシングとは
3. 学会等名 日本在宅ケア学会ケアイノベーション研修「看護のエコー・テレナーシング」セミナー（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中山優季
2. 発表標題 テレナーシングの実践方法
3. 学会等名 日本在宅ケア学会ケアイノベーション研修「看護のエコー・テレナーシング」セミナー（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金盛琢也
2. 発表標題 ICTとリスク管理、法と倫理
3. 学会等名 日本在宅ケア学会ケアイノベーション研修「看護のエコー・テレナーシング」セミナー（招待講演）
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 Tomoko Kamei
2. 発表標題 Telenursing Support for Older Adults with Chronic Conditions During the COVID-19 pandemic
3. 学会等名 International Nursing Conference: Integrated Caring for Persons with COVID-19, Other Airborne Transmission Disease And Chronic Diseases (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Tomoko Kamei
2. 発表標題 A Fully Longitudinal Mixed Methods Case Study Design to Understand the Person's Illness Trajectory During the COVID-19 Pandemic
3. 学会等名 2021 Mixed Methods International Research Association Asia Regional Conference / 第7回日本混合研究法学会年次大会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 亀井智子
2. 発表標題 Mixed Methodsで研究してみよう
3. 学会等名 日本母性看護学会学術支援セミナー (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 亀井智子
2. 発表標題 高齢者ケアへのテクノロジーの活用とテレナーシング
3. 学会等名 日本循環器看護学会学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 亀井智子
2. 発表標題 地域保健活動に活かす混合研究法
3. 学会等名 全国保健師教育機関協議会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 亀井智子
2. 発表標題 テレナーシング(遠隔看護)の可能性 - CNSはテレナーシングにどう取り組むのか -
3. 学会等名 第8回日本CNS看護学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 亀井智子
2. 発表標題 ICT等を活用した遠隔診療の今と未来 - 次世代の医療サービスに診療看護師(NP)はどう貢献できるのか - テレナーシングの実際とエビデンス
3. 学会等名 第7回日本NP学会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 亀井智子
2. 発表標題 慢性疾患在宅高齢者への遠隔モニタリングに基づくテレナーシング
3. 学会等名 日本遠隔医療学会2021シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 亀井智子
2. 発表標題 包括的呼吸リハビリテーションの考え方・日常生活支援
3. 学会等名 フクダライフテック現場で役立つ在宅ケアレクチャー（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大友晋、猪飼やす子、南琴子、亀井智子
2. 発表標題 慢性閉塞性肺疾患在宅療養者を対象とした医療専門職による遠隔モニタリング支援の不安と生活の質への有効性
3. 学会等名 第26回日本在宅ケア学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 江藤祥恵、亀井智子、島内節、内田陽子、高畑陽子、佐々木明子、福田由紀子、栗盛須雅子、宮澤真優美、河田萌生、猪飼やす子、坂本みづ希、木村光佑
2. 発表標題 在宅ケア成人・高齢者を対象としたアセスメントデータセットの有効性：システムティックレビューとメタアナリシス
3. 学会等名 第26回日本在宅ケア学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 南琴子、石川和枝、原田智世、亀井智子
2. 発表標題 慢性閉塞性肺疾患療養者を対象としたACPの事前指示書作成割合に関する有効性：システムティックレビュー
3. 学会等名 第4回日本エンドオブライフケア学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 原田智世、猪飼やす子、根岸由依、加藤エリカ、石川和枝、亀井 智子
2. 発表標題 心不全在宅療養者への専門職による遠隔モニタリングのヘルスアウトカムへの有効性: システマティックレビューとメタアナリシス
3. 学会等名 第26回日本在宅ケア学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tomoyo Harada, Tomoko Kamei
2. 発表標題 Symptoms and Experiences of Older Adults with Lung Cancer in Telenursing with Home-Monitored Under the COVID-19 Pandemic: A Mixed Methods Research
3. 学会等名 Success and Failure in Telehealth 21 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Aki Kawada, Tomoko Kamei
2. 発表標題 Changes in Home-Monitoring-Based Telenursing Services for a Patient with Chronic Disease Before and During the COVID-19 Pandemic: A Fully Longitudinal Mixed-Methods Case Study
3. 学会等名 Success and Failure in Telehealth 21 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河田萌生、亀井智子
2. 発表標題 COVID-19前・中の慢性疾患療養者への在宅モニタリングに基づくテレナーシングの実践と評価 : 縦断的混合研究法事例検討
3. 学会等名 日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 亀井智子
2. 発表標題 テレナーシングの実践とエビデンス
3. 学会等名 日本医療情報学会連合大会2021シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tomoko Kamei
2. 発表標題 Telenursing for Supporting Older Adults with Chronic Diseases During the COVID-19 Pandemic
3. 学会等名 Japan-China Collaborative Online Seminar(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 亀井智子
2. 発表標題 テレナーシングの実践エビデンスと診療報酬化の実際
3. 学会等名 第36回日本がん看護学会学術集会(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Tomoko Kamei
2. 発表標題 Prospective Longitudinal Mixed Methods Study Design for Program Evaluation in an Intergenerational Program
3. 学会等名 2021 Mixed Methods International Research Association Asia Regional Conference / 第7回日本混合研究法学会年次大会(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 亀井智子、辻彼南雄、岡田進一、尾崎章子、加瀬裕子、下田信明
2. 発表標題 エビデンスに基づく在宅ケア実践ガイドライン策定のための システマティックレビューとメタアナリシス
3. 学会等名 第 26 回 日本在宅ケア学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hisako Kakai, Tomoko Kamei, Aki Kawada
2. 発表標題 A Two-step Approach to Drawing Global Meta-inferences of a Fully Longitudinal Mixed Methods Case Study Design
3. 学会等名 2021 Mixed Methods International Research Association Asia Regional Conference / 第7回日本混合研究法学会年次大会 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hisako Kakai, Taichi Hattam Chikako Okawara, Mitsuyuki Inaba, Michiko Abe, Tomoko Kamei
2. 発表標題 Examples of Ways to Achieve "Integration" in Mixed Methods Research - A Team Approach to Polyphonic Integration -
3. 学会等名 2021 Mixed Methods International Research Association Asia Regional Conference / 第7回日本混合研究法学会年次大会 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 原田智世、亀井智子
2. 発表標題 COVID-19流行下におけるテレナーシングの縦断的混合研究法を用いた評価
3. 学会等名 第7回日本混合研究法学会年次大会
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 Tomoyo Harada, Tomoko Kamei
2. 発表標題 Telecommunication between People with Home Care and Telenurses: A Negative Auxiliary Verbs from People Used in Telenursing
3. 学会等名 2021 Mixed Methods International Research Association Asia Regional Conference / 第7回日本混合研究法学会年次大会 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Cazzolli PA, Brooks BR, Nakayama Y, et al.
2. 発表標題 Use of the Oral Secretion Scale for Predicting Tolerance of Noninvasive Ventilation, Survival, and When to Initiate Hospice
3. 学会等名 Allied Professionals Forum.Online (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木田耕太、林健太郎、木村英紀、清水俊夫、長尾雅裕、川田明広、早乙女貴子、本間武蔵、大場優子、清水尚子、池麻秩子、大窄真弓、三村恵美、新井玉南、村上未来、塙良江、奥山典子、中山優季、原口道子、松田千春、高橋一司
2. 発表標題 ALS患者への多専門職種チームによる戦略的アプローチ：ALS/MNDセンターの設立と展望
3. 学会等名 第39回日本神経治療学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中山優季
2. 発表標題 神経難病とともに生きるを支えるケア - ALSケアを中心として -
3. 学会等名 第26回日本難病看護学会学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中山優季
2. 発表標題 ALS患者の人工呼吸器装着後の看護と在宅支援
3. 学会等名 第62回日本神経学会学術大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中山優季、清水俊夫
2. 発表標題 筋萎縮性側索硬化症における多系統変性と関連する臨床の諸問題 気管切開人工呼吸療養下ALS患者における非運動症状・合併症の検討
3. 学会等名 第62回日本神経学会学術大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kakai, H., Fetters, M.D., Kamei, T., & Froehlich, D.
2. 発表標題 MMR in the Era of COVID-19
3. 学会等名 2021 Mixed Methods International Research Association Asia Regional Conference / 第7回日本混合研究法学会年次大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Inaba, M., Okawara, C., Makabe, S., Fukuda, M., Nozaki, M., Abe, M., Kakai, H.
2. 発表標題 Hurdles in Learning and Implementing Mixed Methods Research in Nursing: An Analysis of Focus Group Transcripts Using GTxA
3. 学会等名 2021 Mixed Methods International Research Association Asia Regional Conference / 第7回日本混合研究法学会年次大会（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Okawara, C., Inaba, M., Makabe, S., Fukuda, M., Nozaki, M., Abe, M., Kakai, H
2. 発表標題 Examples of Achieving of “Integration” in Mixed Methods Research: A Mixed Analysis Using Quantitative Text Mining and a Qualitative Content Analysis
3. 学会等名 2021 Mixed Methods International Research Association Asia Regional Conference / 第7回日本混合研究法学会年次大会（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hatta, T., Abe, M., Tajima, C., & Kakai, H.
2. 発表標題 Forms of "integration" in Mixed Methods Research (MMR): Implications of MMR on Educational Needs
3. 学会等名 2021 Mixed Methods International Research Association Asia Regional Conference / 第7回日本混合研究法学会年次大会（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 東福寺幾夫、田村拓郎、高松輝賢
2. 発表標題 ある照明光で撮影した画像を別の照明光で撮影した画像の色に色補正する方式の検討
3. 学会等名 第19回日本デジタルパソロジー研究会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 東福寺幾夫、木村悠
2. 発表標題 喫煙者の減少は定着するか～高崎健康福祉大学における禁煙アンケートから～
3. 学会等名 第16回日本禁煙科学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 東福寺幾夫、田村拓郎、高松輝賢
2. 発表標題 顕微鏡観察像の色に対する対物レンズの影響について
3. 学会等名 第25回日本遠隔医療学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 東福寺幾夫、田村拓郎、高松輝賢
2. 発表標題 顕微鏡対物レンズの観察像の色に対する影響
3. 学会等名 日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 金盛琢也
2. 発表標題 慢性疾患を持つ高齢者に対するテレナーシングの実践と課題
3. 学会等名 第26回日本看護研究学会東海地方学術集会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西村直樹
2. 発表標題 COVID-19 Up to Date 2021 変異株時代のCOVID-19 ~最新の話題と治療のまとめ~
3. 学会等名 第31回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 第8回呼吸ケア指導スキルアップセミナー（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西村直樹
2. 発表標題 COVID-19関連肺炎の臨床、画像、病理 2) COVID-19重症度の変遷とステロイド抵抗性を示した患者の臨床・画像の特徴
3. 学会等名 第40回 日本画像医学会 学術集会 パネルディスカッション (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西村直樹
2. 発表標題 急性期NPPVを見直す 2型呼吸不全への適応から1型呼吸不全に至るまで.
3. 学会等名 第30回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 シンポジウム 1 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西村直樹
2. 発表標題 COVID-19診療における現場の疑問点を考察する 呼吸器学会FAQ広場に寄せられた質問を中心に ステロイド治療のリバウンド現象と治療抵抗
3. 学会等名 第61回日本呼吸器学会学術講演会 特別プログラム (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西村直樹, 盧 昌聖, 富島 裕, 中村友昭, 徐クララ, 今井亮介, 岡藤浩平, 北村淳史, 仁多寅彦
2. 発表標題 COVID-19呼吸管理の振り返り. COVID-19肺炎中等症IIの呼吸管理 (人工呼吸に至るまで).
3. 学会等名 第62回日本呼吸器学会学術集会 シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 亀井智子、東福寺幾夫、猪飼やす子、光永悠彦、西村直樹、山本由子、金盛琢也、河田萌生、原田智世、中山優季、高橋恵子、抱井尚子、中西美貴、上田博臣、岡本香津美
2. 発表標題 テレナーシング学修用eラ ニング講義(55コンテンツ)
3. 学会等名 2019年度～2022年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(A)課題番号19H01082主催・配信(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tomoko Kamei
2. 発表標題 Home-monitoring-based telenursing for people with chronic disease under the COVID-19 pandemic
3. 学会等名 25th International Society for Telemedicine & eHealth International Conference Symposium(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 亀井智子、山本由子、光永悠彦、中山優季、金盛琢也、東福寺幾夫、亀井延明、抱井尚子、高橋恵子、河田萌生、猪飼やす子
2. 発表標題 国内看護系大学・大学院における遠隔看護教育の実態と課題 第1報：学士課程教育上の課題とニーズ
3. 学会等名 国際遠隔医療学会 / 第24回日本遠隔医療学会合同大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本由子、亀井智子、光永悠彦、中山優季、金盛琢也、東福寺幾夫、亀井延明、抱井尚子、高橋恵子、河田萌生、猪飼やす子
2. 発表標題 国内看護系大学・大学院を対象とした遠隔看護教育の実態と課題 第2報：学士課程教育での必要性の認識
3. 学会等名 国際遠隔医療学会 / 第24回日本遠隔医療学会合同大会
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 光永悠彦、亀井智子、山本由子、中山優季、金盛琢也、東福寺幾夫、亀井延明、抱井尚子、高橋恵子、河田萌生、猪飼やす子
2. 発表標題 国内看護系大学・大学院を対象とした遠隔看護教育の実態と課題：第3報 大学院における教育の必要性の認識と課題
3. 学会等名 国際遠隔医療学会 / 第24回日本遠隔医療学会合同大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 亀井智子
2. 発表標題 診療報酬の近未来 遠隔看護とは？ - その実際とエビデンス
3. 学会等名 看護系学会等社会保険連合第11回情報交換会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 亀井智子、山本由子
2. 発表標題 混合研究法を用いた研究支援ツールm-STAR-21の開発：試用評価報告
3. 学会等名 第6回日本混合研究法学会年次大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 河田萌生、亀井智子、西村直樹
2. 発表標題 重症慢性心不全合併COPD 期療養者の在宅モニタリングに基づくテレナーシング 長期実践経過の報告
3. 学会等名 第25回日本在宅ケア学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 亀井智子
2. 発表標題 看護研究に活かす混合研究法 現象を立体的に理解する 質的・量的研究を統合する新しい研究アプローチ
3. 学会等名 愛知県立大学看護学部 研究教育推進委員会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 亀井智子
2. 発表標題 看護における混合研究法の活用 質的・量的研究を統合する新しい実践研究アプローチ
3. 学会等名 山梨県立大学看護学研究科・看護学部 FD・SD研修会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 亀井智子
2. 発表標題 地域保健活動に活かす混合研究法：量と質 両者の統合から見えるもの
3. 学会等名 全国保健師教育機関協議会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 亀井智子、河田萌生、猪飼やす子、高橋恵子
2. 発表標題 国内看護系大学・大学院を対象とした遠隔看護教育の実態と課題 第1報 学士課程における教育の実態と課題 -
3. 学会等名 第15回 聖ルカ・アカデミア
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 遠藤美咲、亀井智子
2. 発表標題 Effect of telehome-monitoring-based telenursing on HbA1c levels in people with type 2 diabetes: A systematic review
3. 学会等名 第25回 聖路加看護学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 亀井智子
2. 発表標題 チームの概念とチームビルディングの方法
3. 学会等名 第30回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nishimura N, Imai R, Ro S, Murakami M, Tsugitomi R, Okafuji K, Kitamura A, Tomishima Y, Jinta T, Tamura T
2. 発表標題 High Flow Nasal Cannula and Non-Invasive Ventilation for Acute Hypercapnic Respiratory Failure: A Retrospective Observational Study
3. 学会等名 American Thoracic Society 2020 International Conference（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西村直樹
2. 発表標題 COVID-19関連肺炎の臨床、画像、病理 2) COVID-19重症度の変遷とステロイド抵抗性を示した患者の臨床・画像の特徴
3. 学会等名 第40回日本画像医学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西村直樹
2. 発表標題 急性期NPPVを見直す 2型呼吸不全への適応から1型呼吸不全に至るまで
3. 学会等名 第30回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 抱井尚子
2. 発表標題 看護研究者のための混合研究法eラーニングシステムの構築とその意義
3. 学会等名 第6回日本混合研究法学会年次大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kakai, H. & Nakagawa, K.
2. 発表標題 The discovering power of inconsistent findings: “Divergent-convergence” in deriving meta-inferences in a qualitatively driven mixed methods study
3. 学会等名 第6回日本混合研究法学会年次大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 ハドリー .G、稲葉光行、抱井尚子
2. 発表標題 キャシー・シャーマズ博士 追悼セッション：構成主義的グラウンデッド・セオリーの挑戦
3. 学会等名 第6回日本混合研究法学会年次大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 抱井尚子、石川慎一郎、グレッグ美鈴、成田慶一
2. 発表標題 MMRオープンフォーラムー混合研究法で質的・量的研究の「危うさ」を乗り越えられるかー
3. 学会等名 第6回日本混合研究法学会年次大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 抱井尚子
2. 発表標題 はじめての混合研究法
3. 学会等名 香川県立保健医療大学大学院保健医療学研究科看護学専攻博士後期課程学術セミナー（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 抱井尚子
2. 発表標題 混合研究法 ～サイエンスとヒューマニティの統合をめざして～
3. 学会等名 清泉女学院大学・清泉女学院短期大学教育文化研究所学術交流会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 抱井尚子
2. 発表標題 混合研究法 その理論と実践
3. 学会等名 法政大学キャリアデザイン学部キャリアデザイン学研究科研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中山優季
2. 発表標題 多職種連携による神経筋疾患のリハビリテーション - 生活機能を維持・向上させるための病期に応じた対応 - 神経難病に対する在宅ケア・訪問看護の実際
3. 学会等名 第57回日本リハビリテーション医学会学術集会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中山優季
2. 発表標題 神経難病看護の専門性の追求 - 難病看護を専門とする看護師の育成 -
3. 学会等名 第38回日本神経治療学会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中山優季
2. 発表標題 温故知新 - 難病看護のバトンをつなぐために
3. 学会等名 第25回日本難病看護学会・第8回日本難病医療ネットワーク学会合同学術集会会長講演（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中山優季
2. 発表標題 神経筋疾患の呼吸管理の歴史を辿り現在を考える .ALS呼吸ケアの歩み - 海外の実践との比較から
3. 学会等名 第30回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 板垣ゆみ、中山優季、原口道子、松田千春、小倉朗子
2. 発表標題 在宅人工呼吸器使用難病患者の訪問看護量に関連する要因と効果の検討
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松田千春、清水俊夫、中山優季、原口道子、板垣ゆみ、小倉 朗子
2. 発表標題 非侵襲的人工呼吸器を使用する筋萎縮性側索硬化症の緩和ケア - オピオイド使用と臨床経過の関係 -
3. 学会等名 第25回日本難病看護学会・第8回日本難病医療ネットワーク学会合同学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 板垣ゆみ、中山優季、松田千春、原口道子、小倉朗子
2. 発表標題 在宅人工呼吸器使用患者の災害時の備え
3. 学会等名 第25回日本難病看護学会・第8回日本難病医療ネットワーク学会合同学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 板垣ゆみ、中山優季、松田千春、原口道子、小倉朗子
2. 発表標題 在宅人工呼吸器使用患者支援事業利用者の状況と利用効果
3. 学会等名 第25回日本難病看護学会・第8回日本難病医療ネットワーク学会合同学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 原口道子、中山優季、小倉朗子、松田千春、板垣ゆみ、笠原康代
2. 発表標題 難病多職種連携研修プログラムの開発 - 研修モデルの試行評価 -
3. 学会等名 第25回日本難病看護学会・第8回日本難病医療ネットワーク学会合同学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 原口道子、松田千春、中山優季
2. 発表標題 筋萎縮性側索硬化症患者に対する外来支援に基づく支援シートの開発 - 効果的な在宅療養支援・地域連携のために -
3. 学会等名 第10回日本在宅看護学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 板垣ゆみ、中山優季、松田千春、原口道子、笠原康代、小倉朗子
2. 発表標題 人工呼吸器使用患者/難病患者に看護提供している訪問看護ステーションの特徴
3. 学会等名 第10回日本在宅看護学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 原口道子、松田千春、中山優季
2. 発表標題 外来に通院する筋萎縮性側索硬化症患者が経験した倫理的課題 - 治療・療養生活上の葛藤と対立する価値 -
3. 学会等名 第14回日本慢性看護学会学術集会
4. 発表年 2020年



1. 発表者名 中山優季、板垣ゆみ、松田千春、原口道子
2. 発表標題 在宅人工呼吸器装着難病患者への長時間訪問看護提供の可能性 - 既存制度の活用実態と今後の課題 -
3. 学会等名 第25回日本在宅ケア学会学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tomoko Kamei
2. 発表標題 Influencing health policy for mainstreaming telemonitoring in Japan
3. 学会等名 Danish-Japanese Welfare Technologies Worksshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 亀井智子
2. 発表標題 やってみよう!混合研究法へのいざない
3. 学会等名 第24回日本在宅ケア学会学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河田萌生, 亀井智子
2. 発表標題 重症慢性心不全を合併した 期COPD療養者1例のテレナーシング導入体験: ケーススタディ
3. 学会等名 第24回日本在宅ケア学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomoko Kamei
2. 発表標題 How to train nursing graduate students to be mixed methods researchers?
3. 学会等名 Mixed Methods International Association Asia Regional Conference 2019 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 亀井智子,山本由子,金盛琢也,中山優季,Michael D. Fetters
2. 発表標題 慢性疾患在宅高齢者を対象とした在宅モニタリングに基づくテレナーシングによるヘルスリテラシーの変化—前向き縦断的混合研究法による検討から
3. 学会等名 第5回日本混合研究法学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuko Yamamoto, Tomoko Kamei, Sisira Edirippulige, Takuya Kanamori
2. 発表標題 Evaluation of using wearable devices for the patients with chronic diseases: a systematic review-and meta-analysis
3. 学会等名 19th Successes and Failures in Telehealth Conference-19 Australia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomoko Kamei, Yuko Yamamoto, Sisira Edirippulige, Takuya Kanamori
2. 発表標題 Chronic disease management with wearable devices and health outcomes: a systematic review and meta-analysis
3. 学会等名 19th Successes and Failures in Telehealth Conference-19 Australia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金盛琢也
2. 発表標題 呼吸器疾患, 神経筋疾患に対する遠隔モニタリングの実践と課題
3. 学会等名 第29回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 桂秀樹, 亀井智子
2. 発表標題 呼吸ケアと遠隔医療 遠隔医療学会共同企画
3. 学会等名 第29回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 亀井智子, 金盛琢也, 山本由子
2. 発表標題 ウェアラブル機器を用いた遠隔モニタリングの慢性疾患急性増悪の予防効果: システマティックレビュー
3. 学会等名 第39回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 亀井智子, Sisira Edirippulige, 山本由子, 金盛琢也
2. 発表標題 ウェアラブルデバイスを用いた慢性疾患管理の有効性: システマティックレビューとメタアナリシス
3. 学会等名 第14回聖ルカ・アカデミア
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Takuya Kanamori, Tomoko Kamei, Yuko Yamamoto, Yuki Nakayama
2. 発表標題 Change in social support after a telenursing intervention for older adults with chronic disease
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yuko Yamamoto, Takuya Kanamori, Sisira Edirippulige, Tomoko Kamei
2. 発表標題 Evaluation of wearable devices in tracking daily steps of people with diabetes: a systematic review and meta-analysis
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tomoko Kamei, Sisira Edirippulige, Takuya Kanamori, Yuko Yamamoto
2. 発表標題 Use versus non-use of wearable device in monitoring physical activity in people with chronic disease: a systematic review and meta-analysis
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hisako Kakai (抱井尚子)
2. 発表標題 混合型研究の評価: データ統合の質に焦点をあてて, 混合型研究の評価基準とは Evaluating mixed methods studies
3. 学会等名 Mixed Methods International Research Association Webinar Series (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomoko Kamei (亀井智子)
2. 発表標題 混合型研究の評価:データ統合の質に焦点をあてて,データの統合方法とその評価How to integrate both data and its assessment
3. 学会等名 Mixed Methods International Research Association Webinar Series (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kakai, H
2. 発表標題 Has JSMMR made any changes to scientific communities inside and outside Japan?
3. 学会等名 The 3rd Mixed Methods International Research Association Asia Regional Conference /第5回日本混合研究法学会年次大会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 抱井尚子,八田太一
2. 発表標題 人間科学における混合研究法の基礎と実践
3. 学会等名 The 3rd Mixed Methods International Research Association Asia Regional Conference /第5回日本混合研究法学会年次大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 抱井尚子
2. 発表標題 エビデンスを創る、質を高める - 混合研究法 -
3. 学会等名 第19回日本認知療法・認知行動療法学会年次大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 抱井尚子
2. 発表標題 混合研究法 シナジーの知を生み出す第3の研究アプローチ -
3. 学会等名 国際ビジネスコミュニケーション学会関東支部研究会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 抱井尚子
2. 発表標題 多文化関係学と私とのつながり 研究・教育における具体的な展開
3. 学会等名 第18回多文化関係学会年次大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 抱井尚子
2. 発表標題 混合研究法 量と質の境界を超えて
3. 学会等名 第31回第二言語習得研究会年次大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 抱井尚子
2. 発表標題 混合研究法の理論的背景と方法論的厳密性 ジョイントディスプレイに焦点を当てて
3. 学会等名 東京女子医科大学看護研究特論 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中山優季
2. 発表標題 ALSの呼吸管理.初期からはじめる呼吸ケア～先をみすえ、そなえるために～
3. 学会等名 第39回日本呼吸ケアリハビリテーション学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中山優季
2. 発表標題 メディカルスタッフレクチャー神経難病と療養支援の現状と今後の課題 - 療養行程の伴走者として
3. 学会等名 第37回日本神経治療学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuki Nakayama
2. 発表標題 Innovation of home-monitoring-based telenursing: The evidence and challenging for health policy changes in Japan
3. 学会等名 International symposium;Health and care in aging Asian cities: Can big data and technology help?（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中山優季
2. 発表標題 ALS における協働意思決定 ～ ゆらく気持ちと向き合う ～ALS 在宅人工呼吸療法の現状と課題- 難病ケア看護の視点から-
3. 学会等名 第1回在宅医療連合学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計27件

1. 著者名 蝶名林直彦編、亀井智子他分担執筆	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本医事新報社	5. 総ページ数 216
3. 書名 必見!オンライン診療の実践と解説	

1. 著者名 横山美江編著、亀井智子他分担執筆	4. 発行年 2021年
2. 出版社 医歯薬出版株式会社	5. 総ページ数 220
3. 書名 よくわかる看護研究の進め方・まとめ方第3版	

1. 著者名 太田勝正・前田樹海編著、亀井智子他分担執筆	4. 発行年 2022年
2. 出版社 医歯薬出版株式会社	5. 総ページ数 192
3. 書名 エッセンシャルズ看護情報学2022度版	

1. 著者名 一般社団法人日本ケアマネジメント学会編、亀井智子他分担執筆	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央法規	5. 総ページ数 426
3. 書名 ケアマネジメント事典	



1. 著者名 秋山正子他、亀井智子他分担執筆	4. 発行年 2021年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 448
3. 書名 在宅看護論第5版	

1. 著者名 六角 僚子編著、亀井智子他分担執筆	4. 発行年 2021年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 260
3. 書名 新看護学13. 老年看護	

1. 著者名 大久保暢子編著、亀井智子他分担執筆	4. 発行年 2022年
2. 出版社 メヂカルフレンド社	5. 総ページ数 280
3. 書名 新体系看護学全書 人体の構造と機能形態機能学	

1. 著者名 一般社団法人日本在宅ケア学会編、亀井智子、辻彼南雄、金盛琢也、原田智世、中山優季、山本由子、河田萌生、猪飼やす子分担執筆	4. 発行年 2021年
2. 出版社 照林社	5. 総ページ数 48
3. 書名 テレナーシングガイドライン	

1. 著者名 中山優季他分担執筆	4. 発行年 2021年
2. 出版社 メヂカルフレンド社	5. 総ページ数 432
3. 書名 在宅看護技術	

1. 著者名 渡辺裕子、中村順子、本田彰子、炭谷靖子、山田雅子、永田智子、中山優季他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本看護協会出版会	5. 総ページ数 516
3. 書名 地域・在宅看護論 第5版	

1. 著者名 公益財団法人日本訪問看護財団編、中山優季他分担執筆	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央法規出版	5. 総ページ数 386
3. 書名 訪問看護お悩み相談室 令和2年版	

1. 著者名 マイク・D・フェターズ、抱井尚子編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 遠見書房	5. 総ページ数 150
3. 書名 混合研究法の手引き - トレジャーハントで学ぶ研究デザインから論文の書き方まで	

1. 著者名 西村直樹, 松田能宣, 合屋 将, 津田 徹	4. 発行年 2021年
2. 出版社 メディカルレビュー社	5. 総ページ数 168
3. 書名 非がん性呼吸器疾患緩和ケア指針2021	

1. 著者名 太田勝正, 前田樹海編, 亀井智子他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 医歯薬出版株式会社	5. 総ページ数 175
3. 書名 エッセンシャルズ看護情報学	

1. 著者名 齋藤昭彦, 下田信明編, 亀井智子他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 羊土社	5. 総ページ数 239
3. 書名 リハビリテーション管理学	

1. 著者名 公益財団法人日本訪問看護財団編, 中山優季他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央法規出版	5. 総ページ数 390
3. 書名 訪問看護お悩み相談室 令和2年版	

1. 著者名 道又元裕編、中山優季他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ナツメ社	5. 総ページ数 176
3. 書名 ナースのための基礎BOOK これならわかる！呼吸器の看護ケア	

1. 著者名 大草知子, 松永和人, 吉田俊子, 亀井智子監修・執筆	4. 発行年 2020年
2. 出版社 エム・イー・タイムス	5. 総ページ数 160
3. 書名 在宅ケアのためのエッセンス - 息が苦しい・胸が苦しい対応とそのポイント	

1. 著者名 亀井智子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本医療企画	5. 総ページ数 359
3. 書名 実務者研修テキスト8. 医療的ケアの理論と実践	

1. 著者名 亀井智子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 放送大学教材	5. 総ページ数 323
3. 書名 成人看護学. 呼吸機能障害のある成人への援助	

1. 著者名 浅野嘉延、吉山直樹編, 亀井智子他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 南山堂	5. 総ページ数 837
3. 書名 看護のための臨床病態学第4版1刷	

1. 著者名 秋山正子, 小倉朗子, 乙坂佳代, 加藤希, 亀井智子他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 433
3. 書名 在宅看護論 第5版第4刷	

1. 著者名 堀内ふき, 大淵律子, 諏訪さゆり編, 亀井智子他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 メディカ出版	5. 総ページ数 382
3. 書名 高齢者看護の実践第4版第5刷.6呼吸・循環機能障害を支える看護	

1. 著者名 Inaba, M. & Kakai, H.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 SAGE.publications	5. 総ページ数 670
3. 書名 The SAGE Handbook of Current Developments in Grounded Theory, Grounded text mining approach: A synergy between grounded theory and text mining approaches,	

1. 著者名 抱井尚子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 746
3. 書名 健康心理学事典, 混合研究法でみる社会と健康	

1. 著者名 抱井尚子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 292
3. 書名 質的研究法マッピング-特徴をつかみ、活用するために	

1. 著者名 中山優季	4. 発行年 2019年
2. 出版社 南山堂	5. 総ページ数 364
3. 書名 神経疾患の緩和ケア-コミュニケーション障害.	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>テレナーシング学修用eラーニング  <a href="https://t1p.edulio.com/telenursing-elearning/">https://t1p.edulio.com/telenursing-elearning/</a>  看護ネット  <a href="https://kango-net.luke.ac.jp/">https://kango-net.luke.ac.jp/</a>  聖路加国際大学大学院看護学研究科老年看護学研究室ホームページ  <a href="http://gerontological-nursing.net">gerontological-nursing.net</a>  NHK首都圏ネットワーク(番組)「テレナーシング」放送日2022年3月8日*  <a href="https://www.nhk.jp/p/shutoken-net/ts/MX1YJ59WZ8/episode/te/VRP7G25W69/">https://www.nhk.jp/p/shutoken-net/ts/MX1YJ59WZ8/episode/te/VRP7G25W69/</a>  聖路加国際大学大学院看護学研究科老年看護学研究室ホームページ  <a href="https://gerontological-nursing.net/greeting/">https://gerontological-nursing.net/greeting/</a></p>
--

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中山 優季 (NAKAYAMA Yuki) (00455396)	公益財団法人東京都医学総合研究所・社会健康医学研究センター・ユニットリーダー (82609)	
研究分担者	山本 由子 (YAMAMOTO Yuko) (00550766)	東京医療保健大学・看護学部・准教授 (32809)	
研究分担者	金盛 琢也 (KANAMORI Takuya) (80745068)	浜松医科大学・医学部・講師 (13802)	
研究分担者	抱井 尚子 (KAKAI Hisako) (20348460)	青山学院大学・国際政治経済学部・教授 (32601)	
研究分担者	光永 悠彦 (MITSUNAGA Haruhiko) (70742295)	名古屋大学・教育発達科学研究科・准教授 (13901)	
研究分担者	西村 直樹 (NISHIMURA Naoki) (60572203)	聖路加国際大学・聖路加国際病院・医長 (32633)	
研究分担者	東福寺 幾夫 (TOFUKUJI Ikuo) (30383144)	高崎健康福祉大学・健康福祉学部・教授 (32305)	
研究分担者	亀井 延明 (KAMEI Nobuaki) (20233968)	明星大学・理工学部・教授 (32685)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	河田 萌生  (KAWADA Aki)  (30826194)	聖路加国際大学・大学院看護学研究科・助教    (32633)	
研究協力者	原田 智世  (HARADA Tomoyo)  (60962719)	聖路加国際大学・大学院看護学研究科・助教    (32633)	
連携研究者	高橋 恵子  (TAKAHASHI Keiko)  (90299991)	埼玉県立大学・保健医療福祉学部・教授    (22401)	
連携研究者	猪飼 やす子  (IGAI Yasuko)  (10862013)	聖路加国際大学・大学院看護学研究科・助教    (32633)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	Michigan Mixed Methods Program			
デンマーク	Aalborg University			
オーストラリア	COH, University of Queensland			